

【 学校運営協議会評価】

学校重点目標

令和 4 年度 松江清心養護学校 学校運営協議会（外部）の評価について

Ⅱ 児童生徒が地域の中で学び、豊かな生活を送るための体制づくり

- ① 地域と連携・協働した教育活動の充実（コンソーシアムの構築）と授業づくり
- ② 地域の方々との、協働した活動による理解啓発
- ③ 児童生徒が、いろいろなバラスポーツの体験をする体制づくり
- ④ HP や校報、メディア等を利用した地域への理解啓発活動の充実

評価（2月末）
A（達成） B（おおむね達成）
C（やや不十分） D（不十分）

	各学部・分掌目標	重点目標 〔学校重点目標との関連〕	評価指標		自己評価	重点目標を達成するための具体的な取り組み	外部評価
			評価者	評価項目			
小学部	◎自分から挑戦しようとする児童の育成 ○身の回りのものや身近な人などに興味・関心をもつ力を育て、広げる。 ○自分の気持ちや考えを自分なりの方法で伝える力を育てる。 ○身近な人と共に活動できる力を育てる。	〔Ⅱ- ①②④〕 ・地域（学校や居住地）とのかかわりをもった授業実践を行う。 ・定期的な HP 更新を行い、学習の様子を地域等に発信する。	学校運営協議会	・地域との連携授業を、各学級年1回以上実施することができたか。 ・年度当初の計画通り、学校 HP で学習の様子を更新することができたか。（実績評価）	B	・どの学級も地域と連携した授業を1回以上実施。 ・ホームページに学習の様子を掲載する年間計画をつくり、更新に努めた。 ・地域と連携した取組は以下の通り。（一部、抜粋資料を添付しています） （高専、生馬小学校との交流、公民館への訪問・輪投げ大会参加、生馬行灯への作品参加、友愛訪問の台紙づくり、カントリーエレベーターやYショップ・郵便局への見学学習、しじみ漁など市内での校外体験学習、ゲストティーチャーの授業 など）	B
中学部	◎自分のよさや可能性に気づき、たくましく生きようとする生徒の育成 ○基礎的な学力の定着を図り、日常生活に活かす力を育てる。 ○自分のやりたいことや目標に向かって挑戦できるたくましい心と身体を育てる。 ○自ら学びに向かい、さまざまな人と自分からかかわる力を育てる。	〔Ⅱ-①②〕 ・生徒が地域交流・貢献をする機会を教員が創設し、地域と連携した活動を行う。		・各学級の実態や状況に応じ、地域と連携した活動を教員が創設したか。 ・生徒や授業への理解を図りよりよい活動とするために、授業前に地域の方と教員やコーディネーター等が話し合う機会を設定したか。 ・学部会で構想発表（7月）や実践報告（12月）を行い、教員間で情報交換や検討をしたか。 ・HPや校報、掲示等を活用し、地域と連携した活動の様子を知ることができたか。	B	・コーディネーターと相談しながら活動に取り組み、5クラス全ての学級で実施した。生徒の学習の取り組み内容により制作物（消臭剤、クリアファイル、ハーバリウム、ウエルカムボード、学校紹介ビデオ）を届け、活用して頂いた。更に4組は、玉造に生徒が出掛け、観光する際に実感したバリアの解決策を考え、玉造温泉街の方々に伝える場を設け、自分たちの考えを堂々と発表した。 ・学部会の中で中間発表、実践報告を行い、情報交換をした。 ・活動の様子をHPや「こんにちは松江清心養護学校です」に掲載し、生馬地区への回覧チラシにてお伝えした。	B
高等部	◎積極的に社会に関わり豊かに生きようとする生徒の育成 ○自立に必要な学力や心身の健康に気をつけて生活する力を育てる。 ○社会性を身に付け、積極的に人とのかかわる力を育てる。 ○身につけた学力を現在及び卒後の生活に活用する力を育てる。	〔Ⅱ-①②〕 ・地域と連携した教育活動の実践を行い、二一ズや課題について学部で共有する。		・各学級の実態や状況に応じ、地域と連携した授業を各学級で1単元行えたか。 ・生徒や授業への理解を図るために、授業前に地域の方と話し合う機会を設定したか。 ・学部会で構想発表（7月）や実践報告（12月）を行い、教員間で情報交換や検討をする機会を設けたか。 ・各学級の実践後、生徒と地域の方にアンケート等を取り、二一ズや課題を学部内で共通理解したか。 ・HPや校報などで地域と連携した授業の様子等が分かったか。	A	・どの学級も1単元にとどまらず、年間を通じて連続、発展的な取組ができた。生徒の実態やねらいにあわせて日頃の学習や事前、事後学習と結びつけ取り組むことができた。 ・担任が情報を集めたり、校内コーディネーターを活用したりした。事前に地域の方と打合せの場を設け、互いが安心して、取り組むことができた。快く協力いただき、感謝している。 ・各学級の取組を報告しあい、「地域の方を知り、関わることができた」「専門的な知識を学べた」「地域貢献につながる」「社会への参画につながる」等の良さを共有した。大きな成果を感じているが、地域活動ありきではなく、より生徒の実態にあった授業を行い、地域とよりよい連携を図れるよう進めていきたい。	A
総務部	◎各部署や保護者と連携を図り、円滑に学校運営ができるように、会議や行事等の企画、調整を行う。	〔Ⅱ-④〕 ・チラシや校報等を活用し、地域への理解啓発活動を行う。		・本校の紹介、授業の様子、HPの紹介等をチラシに掲載し、生馬公民館を通じて地域に配布する。（5回以上） ・校報に地域と連携・協働した授業の実践の掲載枠を作り、発行する。（年2回）	A	・生馬公民館を通じて「こんにちは清心養護学校です」のチラシを9回、校報に地域と連携・協働した授業実践の取り組みを盛り込んで2回発行（2回目は2月末に発行予定）したことは、地域への理解啓発の一端につながったと考える。	A
教務部	◎児童生徒の能力や適性を引き出し、最大限に伸ばすことのできるような教育活動を推進する。 ○小中高の連続性のある教育課程の編成に努める。	〔Ⅰ-①〕 ・各教科、領域等の捉え方や系統性について整理をする。		・校内研究と連携して類型別の会を開催し、各教科、領域等の捉え方や系統性について共通理解を図ることができたか。 ・基本的教育課程が整備され、小中高の連続性のある教育活動について共通理解を図ることができたか。	B	・松江清心養護学校 教育課程の編成にあたって」を整備し、職員会で示した。 ・児童生徒一人一人について教育の円滑な接続が図られるように、教育課程検討シートの改定を提案した。（R5年度完成予定）	B

生徒指導部	◎児童生徒一人一人の能力や適性が発揮され、お互いを認め合える心豊かな社会生活につながる取組を推進する	[Ⅱ-①②] ・地域と連携・協働した授業づくりに伴走するとともに、地域への理解啓発を推進する。		・地域の中で清心養護学校の児童生徒や情報に触れる機会があったか。	B	★校外外を通じて、学級取組(願いや具体案)と地域(ひと、もの、こと)をつなげ、地域連携学習を推進した。学校として地域に出て行くことで、地域に理解啓発を進めた。 ○生馬地区との参加・交流「名尾が丘まつり」(学校公開、作品展示)「生馬行燈」 ○生熊公民館との連携による学習(スポーツ交流、消防団、ライスセンター見学ほか) ○松江高専とのものづくりを通じた協働・交流学習 ○コムスク主催の交流活動の支援(12月 生馬地区ポッチャ交流大会) ○生馬地区青少年を育てる会への参加 ○その他地域での連携学習への伴走支援(宍道湖漁協、公民館、玉造温泉街等々) ○他校種教職員研修への協力(ポッチャ競技の説明ほか)	B
		[Ⅱ-②③] ・部活動運営を始動・推進するとともに、地域との交流機会を設ける。		・地域の中でスポーツを通じた交流機会が持てたか。 ※(東部センター、障がい者スポーツ協会、生馬地区、PTA など)	A	★部活動運営を始動(入部者17名)し、校内での部活動および地域での各種大会等に参加した。「自分たちができる競技」を通じて、社会参加、多様な人との交流など経験を広げ、日常生活との相乗効果も生まれる取組となった。 ○ポッチャ協会より定期的な部活動への訪問指導および交流 ○県内各種大会への本校生徒の参加支援 ○PTA研修(ポッチャ体験)の協力(理解啓発・実技指導等) ○コムスク主催の交流活動への参加支援(12月 生馬地区ポッチャ交流会)	A
進路支援部	◎児童生徒が自己の進路を主体的に選択できるよう進路支援を行う	[Ⅱ-①] ・地域の事業所や関係機関と連携しながら児童生徒、保護者、教職員への進路支援や情報提供を行う。		・教職員に対して、事業所や関係機関などと連携した研修会が実施できたか。 ・進路支援部員で事業所等の見学を行い、それらを進路日より等で情報提供ができたか。	B	・夏季休業中に教職員対象に進路研修会を実施した。相談支援専門員を講師に招き、関係機関との連携について理解を深めた。また、地域の事業所で働いている卒業生との話では、進路選択の実際について知り参加した教員が進路指導について考える機会になった。 ・生徒が生活する地域にある事業所の見学を進路部員で行った。本校の児童生徒の実態を考え、さまざまな事業所の幅広い取り組みに視点を当てて取材し、進路日よりで保護者に向けて情報提供できた。	B
研修推進部	◎研究・研修・情報発信を計画的に実施し、専門性の向上を図る。	[Ⅱ-①] ・自ら専門性の向上を目指そうとする教員集団作りを推進する。		・外部講師による指導助言を活かし、各研究グループで研究の視点に基づく成果と課題を明らかにすることができたか。 ・自立活動推進の取組や各研修会、情報発信が、教員のニーズや専門性向上につながる内容であったか。	B	教員の専門性や授業力向上等を目指し、校内研究では、児童生徒の実態、類型等から4つの研究グループを構成し、研究の視点を設けて提案授業(1学級1実践)と協議を重ねた。また、グループ研究の取組や提案授業について、外部講師(立命館大学・三木裕和教授)による指導助言・研修会を行った。(3回/年)さらに、自立活動推進担当教員による指導場面の巡回や研修会(8回/年、うち1回悉皆研修)、新任者研修(3回)等を行った。	B
保健部	◎一人一人の児童生徒の心と身体の健康を支え、安心安全に学べる学校づくりを推進する。	[Ⅲ-①] ・児童生徒の健康と安全を守る保健体制や、環境の整備、充実を図る。		・安心安全に校外活動に参加するために、具体的な対策を講じたり、各クラスと情報を共有する機会を設けたりすることができたか。	B	・本校の新型コロナウイルス対応マニュアルを基本にししながら、その時の学校の実情に応じた対応を行うことができた。また、地域の皆さんには、本校の感染症対策を理解し、ご協力いただいたことをありがたく思っている。 ・校外活動に参加する際の実施計画を通して、感染症対策の面から交通手段や準備物等の確認を行い、必要に応じて情報を共有することができた。	B
教育相談部	◎地域における肢体不自由教育のセンター的役割として、ニーズに応じた適切な教育相談や研修会を行う。	[Ⅱ-②] ・地域の方々のニーズに応じた教育相談や研修会を行う。	学校運営協議会	・保護者のニーズに応じた親子教室や学校見学、就学相談が実施できたか。 ・参加者や依頼者のニーズに応じた教育相談や研修会が実施できたか。	A	・事前の聞き取りやアンケートを通してのニーズの把握。 ・ニーズ調査に基づいた、親子教室、学校見学、就学相談、研修会等の実施。 ・学校公開としての学校、学部、進路状況の紹介動画や親子教室のコンサート等の希望者に向けてYouTubeでの限定配信。	A
情報管理部	◎社会の中で生きる力を育む ICT 教育を推進するために、情報機器の活用を含めた教職員のスキルアップ、社会や地域への情報発信を進める。	[Ⅱ-④] ・学部や分掌の協力を得ながら、ホームページの更新計画に沿って充実した情報発信を推進する。		・ホームページを更新計画に基づいて、学校の様子や子どもたちの様子を、年20回以上発信できたか。	B	・各学部でホームページ記事執筆担当を月ごとに割り振り、それに従って各学部の取組や作品の写真等を継続して掲載することで、地域に向けての情報発信に寄与することができたと考える。発信回数としては、100回以上記事の更新を行った。 http://www.shimanet.ed.jp/seishin/	A